# 平和へのかけはし使節団

たかもり

発行所
長野県下伊那郡高森町下市田　高森町公民館
発行人
芦部公一
編集
本館編集部
☎35−9416
印刷所
龍共印刷株式会社

8月5日から7日までの日程で第33回平和へのかけはし使節団「広島平和バス派遣事業」が開催され、34名の団員が広島へ派遣されました。

8月5日早朝、丸山公園の平和の丘で出発式を開催し、町民の皆さん、地域の皆さんに作成していただいた17万羽を超える折鶴を受け取り広島へ向けて出発しました。10時間の長旅を終え広島に到着した使節団はまず広島平和記念資料館を見学し、1日目を終えました。

2日目の8月6日には広島平和記念式典に参列後、語り部の方のお話の聴講、折鶴の奉納、平和公園の見学をしました。夜にはとうろう流しの見学もしました。

最終日の8月7日は1日かけて高森町へ戻り、夕方には帰町式を行いました。団員一人一人が平和の尊さについて考える機会となりました。

## 原出分館　納涼祭・マレットゴルフ大会

出原分館では、7月30日（日）に納涼祭が開催されました。コロナ禍で中止を余儀なくされていましたので、実に4年ぶりで待ちに待った開催でした。

納涼祭の会場は出原区民会館で行われました。会場内には、屋台やゲームコーナーがあり、家族連れや友人同士で賑わっていました。屋台ではフランクフルト、生ビールなどの夏の風物詩が販売され、おいしそうな匂いが漂っていました。特に人気だったのはキッチンカーによるクレープで、子ども達の行列ができていました。またゲームコーナーでは、お菓子釣りが行われ、子どもたちが楽しんでいました。松川町からフラメンコ踊者に来ていただき、ダンスパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げてくれました。

さらに、盆踊りが行われて、高森音頭を多くの人が楽しく踊られていました。終わりにビンゴ大会が行われ、豪華な賞品の当選にみんなドキドキし、盛り上がりをみせました。4年ぶりに開催された素晴らしい納涼祭は、出原区民にとって貴重な機会であり、コミュニティを結びつけるものでした。

納涼祭の成功には、大勢の関係者が関わっており、準備や運営にご協力をいただきました皆様には、心からの感謝の意をこの場をお借りし表させていただきます。

今回の納涼祭は、暑さを忘れさせ、地域の人々が一緒に楽しむことができる貴重なイベントとなりました。来年の開催も楽しみに待ちたいと思います。

また、同日日中には区民マレットゴルフ大会が田沢マレットゴルフ場にて行われ、暑い中多くの方が集まり楽しくプレーすることができました。分館対抗で行われ、順位を争うのとは別に個人別でも順位を争いました。ホールインワンもでて大変盛り上がりました。

表彰式を納涼祭の開始前に出原区民会館で行い、分館全チーム、個人成績上位者、小学生以下全員等に商品を渡す結果になりました。マレットゴルフ大会もコロナの影響で中止、縮小もありましたが、来年の開催も楽しみです。

（編集部）

## 吉田西分館　楽しく交流　マレットゴルフ大会・納涼祭

吉田西分館長　中塚　芳二

吉田西地区は吉田区の中でも上段部分の約100戸弱4つの常会からなる地区です。コロナ禍で公民館活動が制限されていましたが、ようやく活動が復活しつつあります。

そこで4年ぶりになりますが、吉田西地区のこれまでの活動を継承し、スポーツ大会、納涼祭を企画し、8月5日(土)山吹マレットゴルフ場にてマレットゴルフ大会、その日の夕方から、吉田西地区館にて表彰式を兼ねて納涼祭を実施して、30名程の参加をいただきました。

当日は4年ぶりのマレットゴルフ場でしたがきれいに整備されていて、松の木の間から流れる木風とせみの鳴き声を聞きながら、気持ち良くプレーできました。各グループ毎にコースを回り、珍プレー好プレーがあり、あちらこちらから歓声が沸き上がり、楽しく交流ができました。

私ごとですが、日頃の運動不足を感じつつ、なんとか18ホールプレーを無事終了することができました。

さて、夕方からの納涼祭は、各自個別折り詰めにてできる限りコロナ対策を行いながらの開催となりましたが、4年ぶりに地区の皆様と顔を合わせての歓談ができ、表彰式、ホールインワン賞、ビンゴ等で盛り上がり、和やかな時間が過ぎてお開きとなりました。

世の中がコロナ禍を体験し、地域コミュニティーづくりの形態が徐々に変化していく中ではありますが、今後ともこのような機会、また多くの方が参加できる大会等を企画していきたいと存じます。

## 高森中学校　地域応援ボランティア

7月から始まったこの取り組みは、地域行事のボランティア募集に対して、「やってみたい！」と思った生徒が主体的にボランティア参加します。7・8月の2か月間で9つの事業に45名の生徒の皆さんがボランティアに取り組みました。それぞれの行事の主催者から、「大変助かった。」「自分なりに考えて行動できていた。」「中学生が張り合いを持ってやってくれた。」「お客さんや役員から好評だった。」など、中学生が意欲的に活動していたとのうれしい報告が数多くありました。これからも地域での中学生の活躍が期待できそうです。（教育支援センター教育支援指導主事）

夏休み福祉教室『めだかの学校』
(8月3日　ボランティア・センター)

下市田3区分館

## 4年ぶりの下市田3区分館行事開催！

下市田3区分館長　坂巻　博夫

去る6月25日、下市田3区分館行事、今年度初の「軽スポーツの集い&ちょっと防災」が下市田区民会館で4年ぶりに開催されました。

まだコロナ禍も終息されない中で、また自由参加にも関わらず、大人48名、子ども24名、合計72名という大勢の方の参加で大変盛り上がりました。

この行事は区伝統のもので、お子さんからお年寄りまで出来る軽スポーツで交流を深め、また簡単に出来る防災内容をみんなで学んだり実施したりして防災意識を高めようとして始めたものです。幸い区は自主防災団の他に防災委員を備えており、この方々と一緒に会議を開いて進めてきました。しかしながら4年ぶりの開催のため段取りを知っている方が少なく、分からないことが多かったので苦労しました。

軽スポーツは、囲碁ボール、室内ペタンク、輪投げをしました。お子さんからお年寄りまでが一緒にチームを作り、ゲームを楽しみました。

ちょっと防災では、屋外でレンガストーブを2基作り、マシュマロを割り箸に刺して焼いて食べたり、やかんでお湯を沸かしてコーヒー、ココアを飲んだりしました。また、飯ごうでご飯を炊いたりしました。他には消防署から水消火器をお借りして、火の形の的を倒す消火訓練をお子さんも楽しみながら実施しました。最後に屋内ではＡＥＤの使用方法、心臓マッサージの仕方、応急担架の作成及び運搬方法など救急救命に関して防災委員などから学びました。また、新聞スリッパを全員教わりながら作り、特に子どもたちは夢中になって何足も作っていました。

今回の行事で、日頃から地域の方と交流し、つながりを作っておくことの大切さと、いざという時に出来ることを知り、防災の備えの大切さを知ることが出来ました。来年はコロナも終息すれば、今年出来なかった炊き出し訓練も加われば、更に有意義な行事になるかと思います。

上平分館

## レクリエーション及び交流会

上平分館長　中平　信行

上平分館では、8月6日（日）午後2時からレクリエーション及び交流会を開催しました。コロナ禍でほとんどの分館行事が中止となり、4年ぶりの行事となりました。

まず、「白髪の杜」を出発し徒歩で清水坂を下り途中、高森町教育長高野正延さんの説明で昭和36年6月の三六災害当時の写真を見ながら変わりゆく上平河原を遠望しました。当時と現在を比べますと当たり前ですが地形も大きく変わった事を改めて実感させられました。

その後、さらに下りクラブハウス内でレクリエーションとして囲碁ボールとモルック競技を行いました。囲碁ボールでは、スティックでボールの打ち方や加減が分からずオーバーランしてアウトになったり中々揃わなく苦戦したりしていました。

又、モルックの方も50点ピッタリにならずこれも苦戦していましたが、子どもさんから大人まで2時間近くの楽しいレクレーションになりました。

終了後、地区館へ戻り子ども会によるお楽しみ会を保護者会・部員の協力で水風船釣り・スーパーボールすくい、射的で楽しんだ後、午後6時30分頃から花火大会で盛り上がりました。

そして、午後7時からご苦労様会でかわいたのどを潤しました。

最後になりますが、ご協力をいただいた教育長さんをはじめ地区の皆さん、部員の方ありがとうございました。天気も良く有意義な1日になりました。

吉田東分館

## 神社参りのすすめ

去る令和5年度8月6日に開催予定であった第22回サマーフェスティバルin吉田東ですが新型コロナウイルスの感染が拡大していることに鑑み、今年の開催を中止した次第です。サマーフェスティバルをテーマに公民館報に寄稿しようしていた為テーマ探しに苦慮しましたが、つい先日に吉田史学会によって「吉田の里・歴史散歩」が刊行されましたのでこの機会にご紹介をさせていただきます。

書籍は導入と全4章（全19節）、資料によって構成されており非常に充実した内容に仕上がっており読み応えのある物になっています。古代から現代へ至る吉田地域の歴史と併せて文化財や史跡・城跡、寺社、煙火など幅広く地域の歴史文化などが紹介されています。

この中でサマーフェスティバルの開催予定会場であった吉田区民会館のすぐそばに位置している吉田神社についても紹介されていましたので一部内容を引用してご紹介します。

〝吉田神社は、吉田の人々を守る産土神（うぶすながみ）で御祭神は八幡大神と諏訪大神のお両神である。明治以後、吉田神社と言われるようになったが、それ以前は八幡様と呼ばれていた〟（吉田の里・歴史散歩、第2章 中世から近世の吉田郷 42ページ）と説明されています。産土神とは土地の守護神でありその土地に生まれた者を一生守護する神であり、初宮参りは生まれた子供をその土地の産土神様に報告しご加護を受けるために行うもので七五三なども同様です。筆者の七五三もこの吉田神社で行いました。

氏神様と似たように思われるかもしれませんが氏神様は〝地域の人々を護る神〟であるので生まれは関係ありません。近世以前の様に人々が領地に縛り付けられていた時代は生まれた土地の氏神の氏子になる事が当然でしたが、近代以降の移動が自由になった社会ではその限りではなく移住した場合はその土地の氏神様の氏子になる事になるのです。しかし産土神様は一生変わることはありません。筆者も一時期県外に居住していましたが帰郷の際には吉田神社を訪れていました。

皆さんも遠方にいるご親族が帰郷の際には地域の神社へのお参りをお勧めになってみてはいかがでしょうか。

（編集部）

## まちのとしょかん

### 絵本について学ぶ講演会を開催しました！

8月17日、たかもり読書クラブほんともの企画として、「絵本の〝扉〟を開いて～子どもたちの世界が広がるために～」と題した講演会を実施しました。当日は、町内保育園の保育士や読み聞かせボランティアとして活動してくださっている町民の皆さんなど、大勢の参加者にお集まりいただきました。

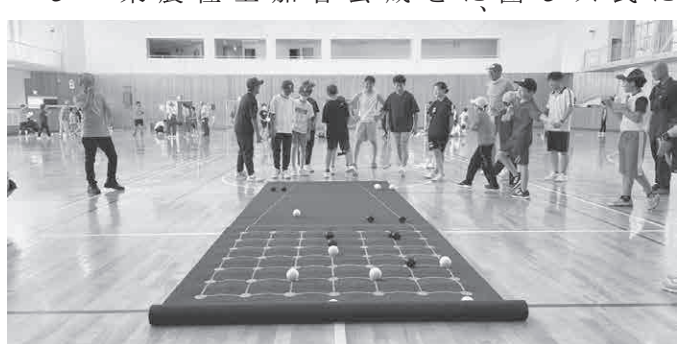
今回講師を務めてくださったのは、松川村図書館館長の棟田聖子さんです。はるばる北安曇郡から高森町までお越しいただきました。棟田館長は、県内でも数少ない絵本専門士の資格をお持ちの方で、館長としてはもちろんのこと、松本大学の図書館司書課程で非常勤講師をお務めになるなど、県内の図書館界を牽引する一人です。

講演では、絵本や絵本の読み聞かせが、子どもにどのような影響を与えるのかといったお話から始まり、絵本選びや読み聞かせの技術のポイントなど、実践的なお話もしてくださいました。具体的な作品紹介や読み聞かせ・パネルシアターの実演なども交えて、その知識の深さや技術の高さを感じ、学びの多い時間となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

### 中学生が図書館の仕事を体験してくれました

夏休みを利用して、高森中学2年生の生徒さん2名が職場体験に来てくれました。日頃は利用者として訪れる図書館も、いつもとは違う見え方があったようです。慣れない中でも業務にきちんと取り組んでくれました。今回学んだことが、将来の選択に役立つことを願っています。

（町立図書館）

## 公民館スポーツフェス

7月30日(日)に町民体育館で公民館スポーツフェスが開催されました。モルックと囲碁ボールを種目に、12チームが優勝を争いました。育成会ふれあい交流会で来町された小谷村の皆さんも参加し、大いに盛り上がりました。上位チームには地元農家さんご提供の果物や柿丸くんグッズ等が贈られました。（本館主事）